

全連小研究大会第4分科会【提言発表資料】

視点① 主体的・対話的で深い学び実現するための授業改善の推進

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる
「学びの文脈」を大切にした授業づくり

～「教師が教えたこと」を「児童が学びたいこと」へと転換させる
全市統一的な「唐津の学びスタイル」に基づく学力向上の取組～

佐賀県唐津市立相知小学校
佐伯 美和



佐賀県唐津地区（唐津市・玄海町）



小学校	21校
小中併設校	6校
義務教育学校	1校



『チーム唐津』で進める学力・授業力向上プラン

研修会の実施

学力調査の分析

「唐津の学びスタイル」に基づく 全市統一的な学力・授業力向上の取組

～個別最適な学びと協働的な学びの推進～

学力・授業力向上 6か年計画

いきいき学ぶからっ子

年度	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
中・長期的構想	ステージ1		ステージ2		ステージ3	
	多様な実践例		統一実践		各学校の実態に最適化	
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	個別最適な学び		個別最適な学びと協働的な学び 「授業の位置づけの明確化」		個別最適な学びと協働的な学び 「中学校区ごとの位置づけ」	
研修援助	協働的な学び					
学力向上指定校 【2か年】 中学校区	①浜玉中校区	①浜玉中校区 ②湊中校区	②湊中校区 ③相知中校区	③相知中校区 ④第一中校区	④第一中校区 ⑤鏡中校区	⑤鏡中校区
	※年度によって指定する校区増減あり					
唐津市	唐津市教育大綱 (3年目 R2～R6)	唐津市教育大綱 (4年目 R2～R6)	唐津市教育大綱 (5年目 R2～R6)	唐津市教育大綱	唐津市教育大綱	唐津市教育大綱
国の動向		小学校教科書採択	小学校 新教科書 中学校教科書採択	中学校新教科書		

授業公開

学校訪問

QUの実施

1人一台端末の活用

	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
指定校 1 年目	A中学校 校区	B中学校 校区	C中学校 校区	D中学校 校区	E中学校 校区	
指定校 2 年目		A中学校 校区	B中学校 校区	C中学校 校区	D中学校 校区	E中学校 校区
推進校			A中学校 校区	B中学校 校区	C中学校 校区	D中学校 校区

【学力向上運営委員会】指定校・推進校の管理職打合せ（年度初め・年度末）

【学力向上研究会】

指定校2年目 or 推進校の授業公開による共通認識、講師による講演会

指定校、推進校による研究内容発表、実践発表、講師による講演会

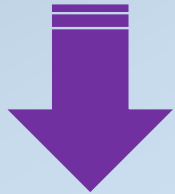
指定校による授業公開及び授業研究会、講師による講演会

授業づくりの7つのポイント

- a 単元の課題や本時のめあての質を向上
- b 単元計画、単元デザインを立てた上での授業実践
(L.M)を活用した授業づくり)
- c 課題解決の過程におけるステップの明確化や細分化の工夫
- d 個々の特性や進度に応じた学習材の提供や学習活動の工夫
- e 遅れがちな児童生徒に対する個別最適化の取組
- f 各教科等における質の高い話合いの実現に向けた取組
- g リフレクションを充実させ、メタ認知を高める取組
(L.M)を活用した授業での「振り返り活動」)

L.M : Learning Mountain
(= 「学びの山」)

単元の流れを
山登りに見立て、
バックワードデザインで
授業設計をするための図



何を
どのように学び、
どう生かすか？

「学びの文脈」を
大切にした授業づくり



「学びスタイルチェックシート」の活用（一部抜粋）

個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業を目指しましょう！

※小学校は校内研究や自己で研鑽を積みたい教科を軸に、中学校は各担当教科を軸に、評価をしてください。

個別最適な学び	指導の個別化	ねらい： 一定の目標をすべての児童生徒が達成することを目指し、学習内容の確実な習得を図る。 【評価の視点】 ○ 支援が必要な児童生徒への重点的な指導や児童生徒の特性や進度に応じた柔軟な指導・教材の提供ができているか。 【評価の目安】 4…70%以上 3…50～69% 2…30～49% 1…30%以下	個に応じた支援をする。 学習内容を確実に習得させる。
	学習の個性化	ねらい： 児童生徒の興味・関心等に応じて、学習を広げ深める。 【評価の視点】 ○ 児童生徒の興味・関心等に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、児童生徒が自ら課題を設定して、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現等を行う等の探究的な学習に取り組ませることができているか。 【評価の目安】 4…3単元以上 3…2単元 2…1単元 1…取り組んでいない	児童が自分の課題を決める。 児童が学びの方法を選択する。
協働的な学び		ねらい： 多様な個性をもつ他者を尊重し、同じ目的を共有して、互いによりよい考えに高めたり、考えを広げたり深めたりして、よりよい学びを生み出す。 【評価の視点】 ○ 児童生徒が互いを認め合いながら、考えを広げられる場面を設けることができているか。 【評価の目安】 4…70%以上 3…50～69% 2…30～49% 1…30%以下	互いの思いや考えを伝え合う。 よりよい考えに高め、広げる。 よりよい学びを生み出す。

湊小学校 (推進校)	自分の考えをもち、学び合うことができる児童の育成を目指した、読み解く力を高めるための手立て
伊岐佐小学校 (指定校2)	研究テーマを「個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けた教育課程の工夫」と設定し、小規模校における少人数ならではのよさを生かした学びの実現
相知小学校 (指定校2)	設定した視点の実現に向けた取組 視点A：個別最適な学び、協働的な学びの一体化 視点B：「4つの感」を実感するための形成的評価の在り方
長松小学校 (指定校1)	目標達成に向けて単元全体を具体的に構想する「単元づくり」と、授業の質的改善を通して行う主体的に学びに向かう児童の育成を目指した取組
大志小学校 (指定校1)	児童が主体的に学び、互いの考えを大切にできる授業を目指して取り組んだ、協働的な学びを実現する授業

実践モデル

実践の工夫

成果と課題

おわりに

授業づくりにおける、個別最適な学び、協働的な学びの**一体的な充実**



ここはね、…。



こうすると、
どうなる？

個別最適な学び

協働的な学び

なるほど…
〇〇を
見るのも
いいねえ…



授業づくりにおける、個別最適な学び、協働的な学びの**一体的な充実**

個別最適な学び

協働的な学び

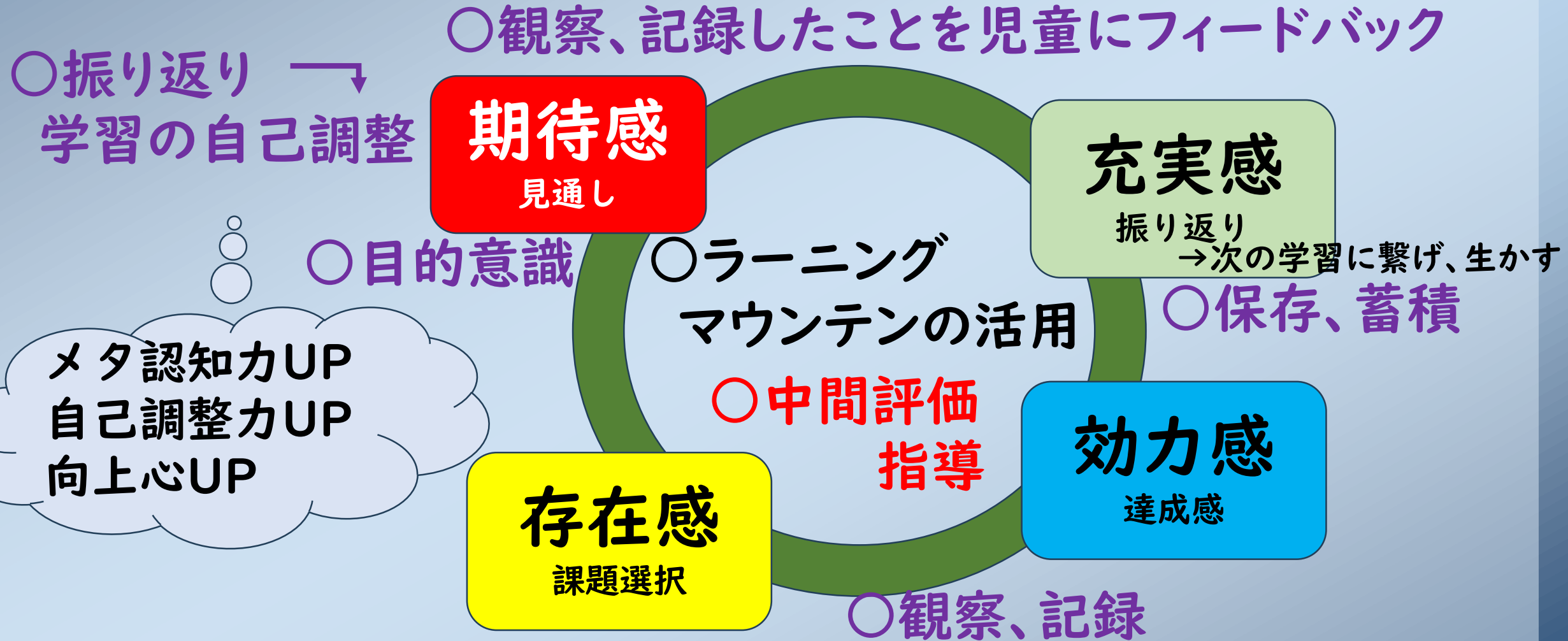
このこと
について
聞いて
みよう！



そうか！
じゃあ、
ここを
もっと
調べて
みよう！



「4つの感」を実感するための形成的評価



○評価の基準を共有（児童と教師） ➡ 児童のWell-beingへ

単 元 名

単 元 の ゴ ー ル

STEP 3

学習のゴール
(○/○時間)

期待感 存在感 効力感 充実感

STEP 2

学習活動

(2～●/○時間)

期待感 存在感 効力感 充実感

STEP 1

学習の見通し

(1/○時間)

期待感 存在感 効力感 充実感

これまでに学んだ力

(身に付いている力)

知識・技能

思考・判断・表現

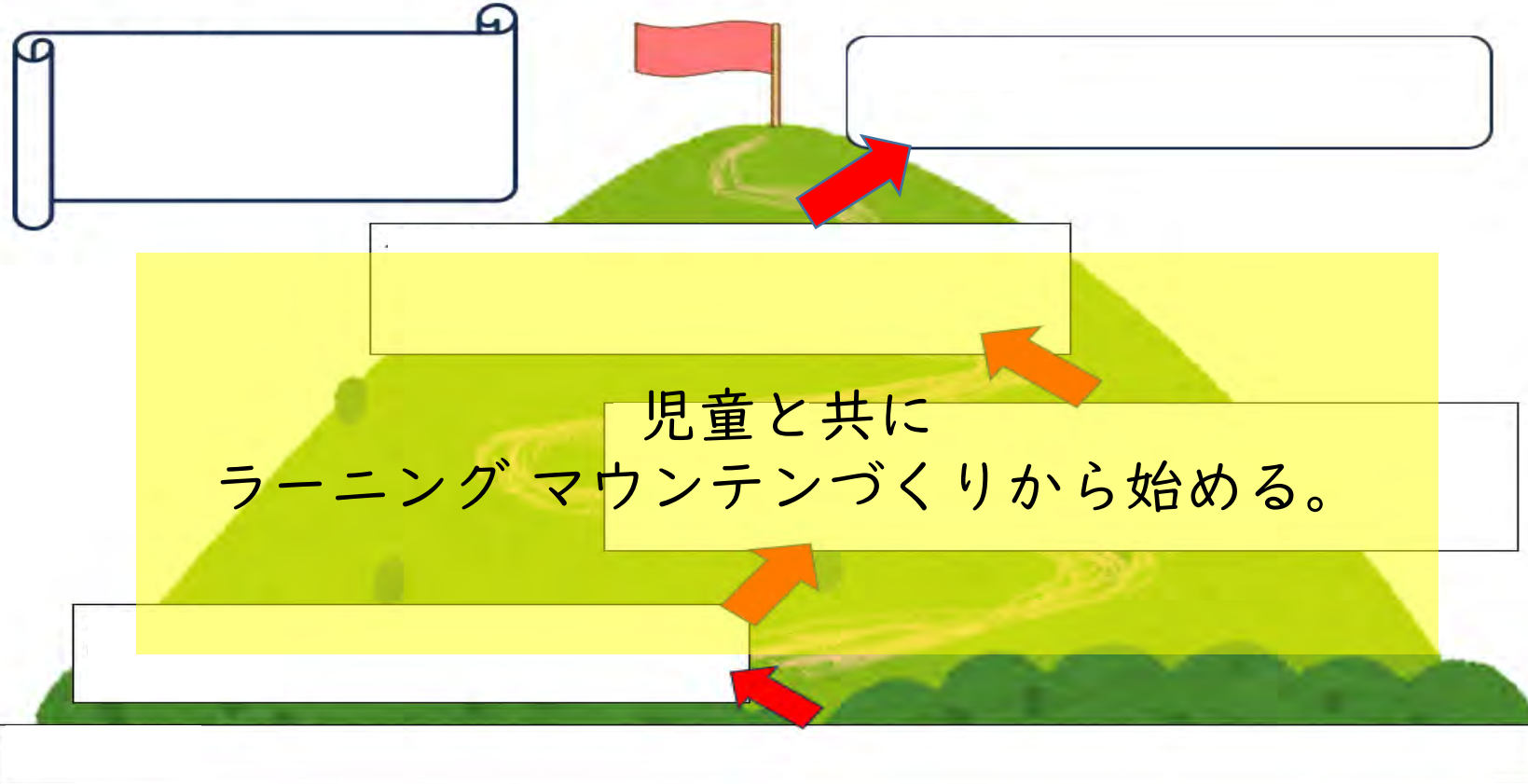
主体的に学習に取り組む
態度

ふりかえり

ふりかえり

ふりかえり

単元の最後に自己の学びを振り返る



ふりかえり

⑥

⑤

④

③

②

①

授業の最後に
自己の学びを
振り返り、
次の学びに
つなげる。



①土壌づくり

ア 学校全体で取り組む ポジティブ行動支援に向けて

実践の工夫

成果と課題

おわりに

「時間を守ろう」取り組み結果

3時間目の始まりの時間に席についていた人数



取り組み前より

	とても そう思う	だいたい そう思う	あまりそう おもわない	まったくそう おもわない
時間を守ろうとした。	65%	29%	5%	1%
時間を守ることができるようになった。	64%	31%	4%	1%
時計を見て行動するようになった。	53%	39%	5%	3%
すぐに学習を始めることができた。	61%	33%	4%	2%
集中して学習できた。	53%	39%	7%	1%



○「望ましい行動を育てていく」
支援の仕組み



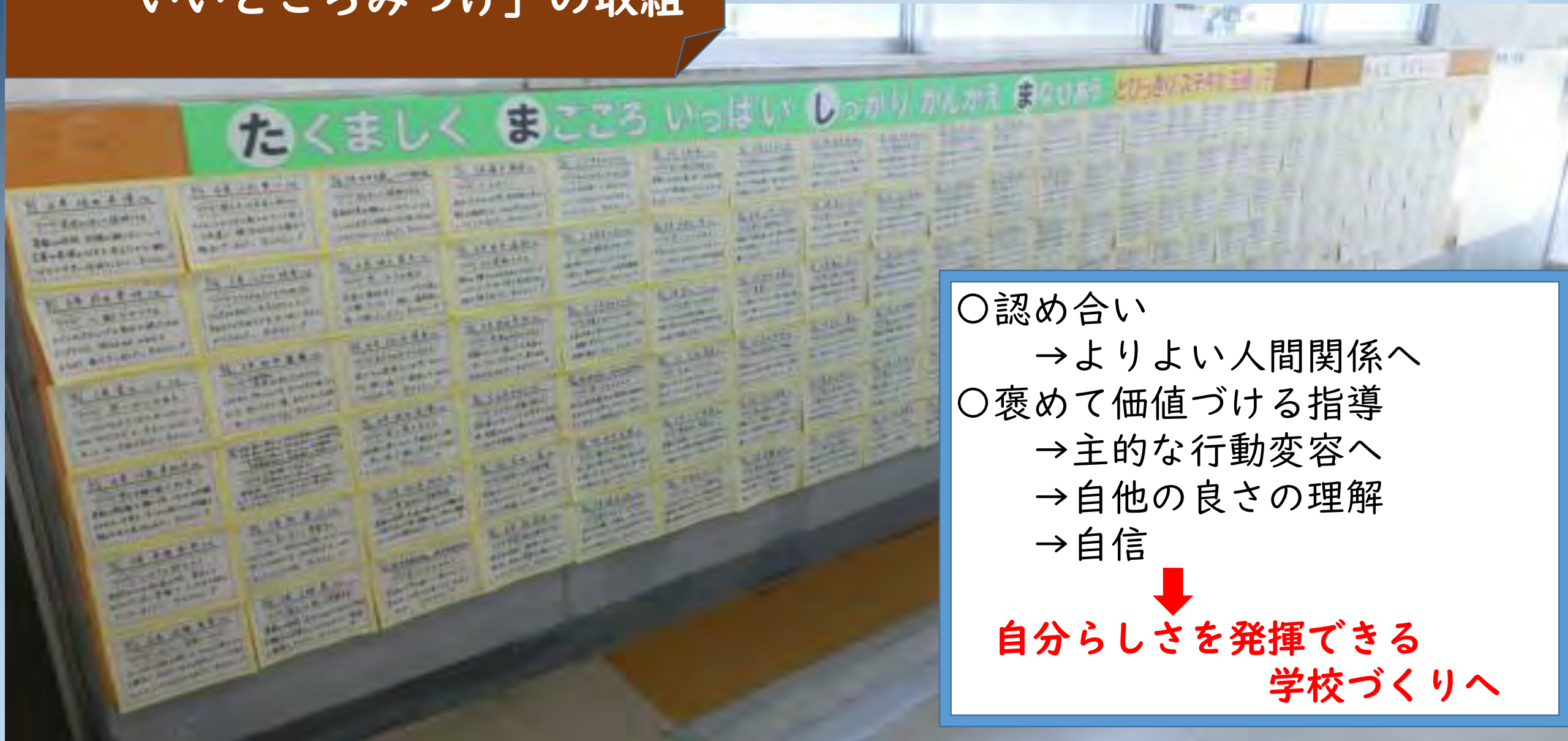
- ほめる行動の浸透
- 児童の自己肯定感の向上
- よい行動を意識する風潮

① 土壌づくり イ 校長が関わる 「いいところみつけ」の取組

実践の工夫

成果と課題

おわりに



○認め合い

→よりよい人間関係へ

○褒めて価値づける指導

→主的な行動変容へ

→自他の良さの理解

→自信



自分らしさを発揮できる

学校づくりへ

① 土壌づくり イ 校長が関わる 「いいところみつけ」の取組



全校バージョン



実践の工夫

成果と課題

おわりに



各学級バージョン

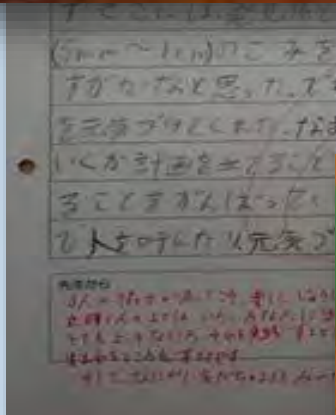
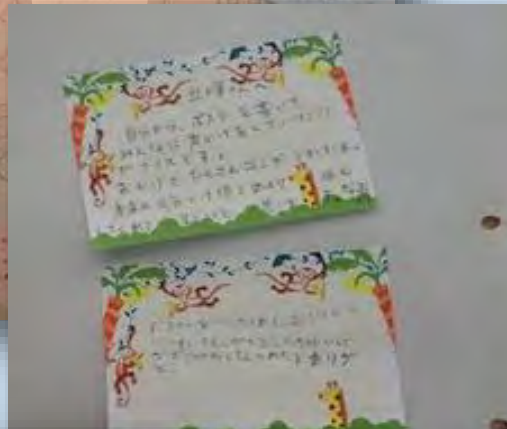
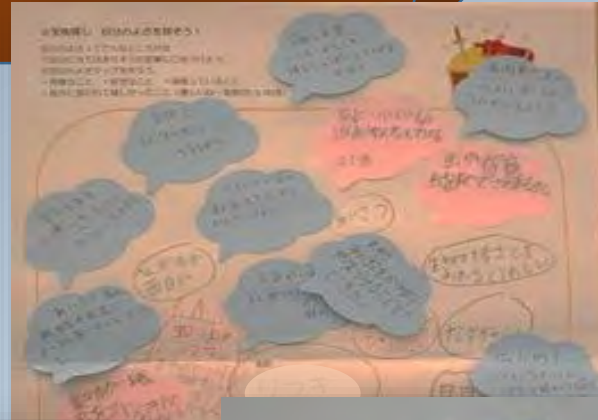
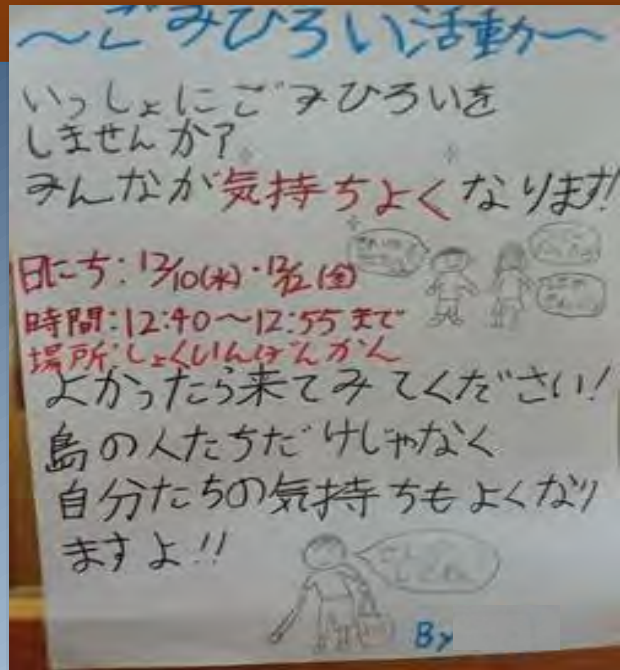


① 土壌づくり ウ 「自立 貢献 挑戦 する 子どもたち」の実現に向けて

実践の工夫

成果と課題

おわりに



- この実現に向けての取組
- 自立、貢献、挑戦は、個と集団での学びに大きく関わっている。
- 例：
 - ・児童は各自で学期の目標を立てる。
 - ・中間や学期最後の振り返りにおいて、教師が自立の視点、貢献の視点、挑戦の視点に分けて、個の活躍や集団で成し遂げた成果を評価する。



人としての土壌づくり

① 土壌づくり

エ 特別活動の意義の確認と実践 ▶ に向けて

実践の工夫

成果と課題

おわりに



学ぶ意欲が高まる
コミュニケーションが育ち、授業が活発になる
主体性・問題解決力が身に付く
学級の人間関係がよくなり、安心して学べる
学習習慣や責任感が育つ

学級集団の土壌を耕す取組



① 土壌づくり

エ 特別活動の意義の確認と実践に向けて

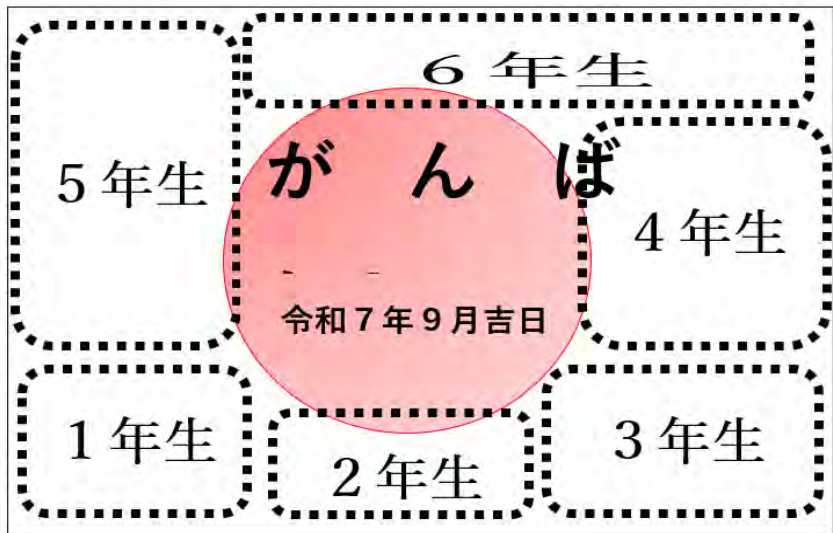
しかけ

ねがい

選手が、11月に行われる、デ
m・200m)に、日本代表と

ツセージを国旗に書いて、応援

旗を各学級に回しますので、下の振り分
けを参考に、「メッセージと名前」を書い
てください。記入は、ネームペンを使っ
てください。

②思考力・創造力の育成に向けて

実践の工夫

成果と課題

おわりに

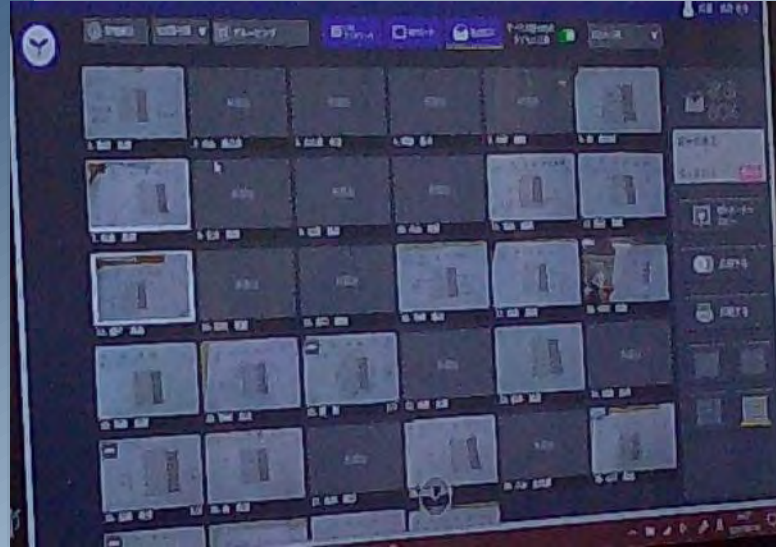


②思考力・創造力の育成に向けて ア ICTの適切かつ効果的な活用 イ 生成AIを活用した授業展開

実践の工夫

成果と課題

おわりに



②思考力・創造力の育成に向けて
ウ 個別最適な学びと

協働的な学びの一体的な充実

実践の工夫

成果と課題

おわりに



- 実況中継
- 形成的評価
- 中間指導
- 振り返り

児童の学力向上

思考ツール、ヒントカード

指導の個別化 学習の個性化

モデリング

資料の掲示

電子黒板やタブレット、図書の本、教科書、
これまでのノートやワークシート等

グループワークの工夫
キーワードごと
ツールごと

協働的な学び

学び合い

ペアタイム
グループタイム
トラベルタイム

②思考力・創造力の育成に向けて エ 振り返り活動の充実

実践の工夫

成果と課題

おわりに

振り返りのクローバー

きたい感

★わくわく
★たのしみ
★もっと！

そんざい感

★やくにたてた！
★じぶんのよさが
だせ

た！
★おかげで

★わかった！
★がんばった！
★できるように
なった！
★よし！

たっせい感
(効力感)

★よかった！
★うれしかった！
★おもしろかった！
★これからも！

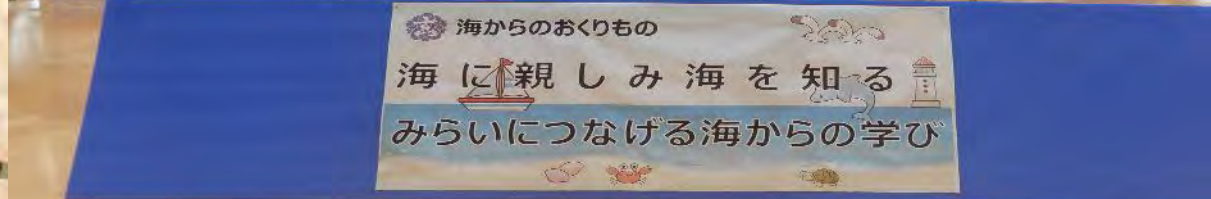
じゅうじつ感

③教科横断的な学習に向けて

実践の工夫

成果と課題

おわりに



③教科横断的な学習に向けて

実践の工夫 成果と課題 おわりに

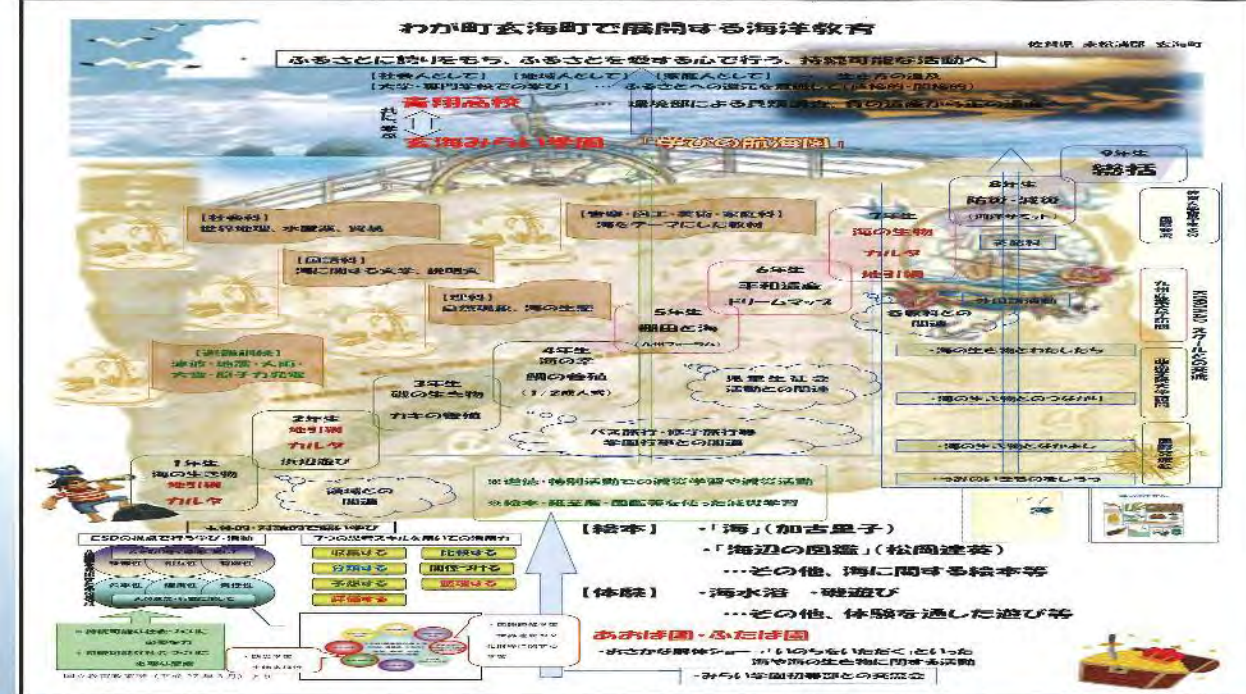
【学びの航海図】
全学年通した
カリキュラム

生活科・
総合的な学習の時間の柱
関連する教科での学習
特別活動・学校行事との関連
交流活動

主体的・対話的で深い学びに
向かうための理論やスキル



玄海みらい学園



1年生 「海や浜辺の生き物となかよし①」



【文化発表会での表現活動】



【地引き網体験学習】



【外国語活動：海の生き物】



【砂浜アート】



【海鳥の寸劇】

2年生 「海や浜辺の生き物となかよし②」



【1・2・7年との地引き網体験】



【後期課程理科の先生の話】



【遊覧船乗船】



【砂浜アート】

【みらい水族館】



3年生 「磯の生き物・玄海町の海の生き物となかよし」



【原子力避難訓練】



【体育大会での表現活動】



【西南学院大学 留学生との交流会】



【磯の生き物観察】



【磯の生き物観察】

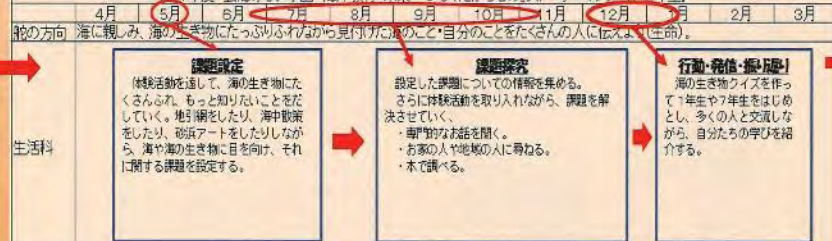


【磯の生き物観察】

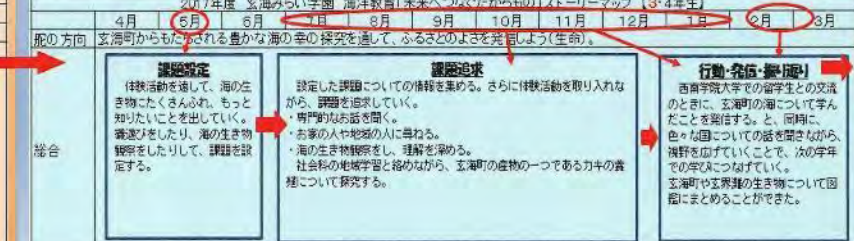


【津波避難訓練】

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【1・2年生】



2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【3・4年生】



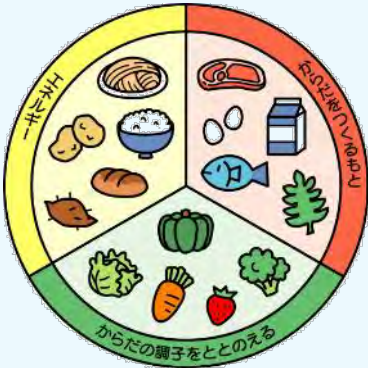
【児童が主体的に活動できるゴールの設定】

○家庭科や社会科、総合的な学習の時間との紐付け

5年生 What would you like?

6年生 Let's think about our food.

→プレゼンし、給食メニューになる。



- ・家庭科
- ・社会科
- ・学級活動(食育)
- ・総合的な学習の時間

- ① メニューを考える。
- ② 栄養バランスをチェックする。
- ③ 食材をあげ、生産国を調べる。
- ④ 地図に書き込む。
- ⑤ 発表 or やり取りをする準備
- ⑥ 発表 or やり取り



● 食材と生産国

主な材料	生産国	主な材料	生産国

「学びスタイルチェックシート」による振り返り（一部抜粋）

個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業を目指しましょう！

※小学校は校内研究や自己で研鑽を積みたい教科を軸に、中学校は各担当教科を軸に、評価をしてください。

4段階評価
7月
(取組 前)4段階評価
2月
(取組 後)

個別最適な学び	指導の個別化	ねらい：一定の目標をすべての児童生徒が達成することを目指し、学習内容の確実な習得を図る。 【評価の視点】 ○ 支援が必要な児童生徒への重点的な指導や児童生徒の特性や進度に応じた柔軟な指導・教材の提供ができているか。 【評価の目安】 4…70%以上 3…50～69% 2…30～49% 1…30%以下	3.2	3.43
	学習の個性化	ねらい：児童生徒の興味・関心等に応じて、学習を広げ深める。 【評価の視点】 ○ 児童生徒の興味・関心等に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、児童生徒が自ら課題を設定して、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現等を行う等の探究的な学習に取り組ませることができているか。 【評価の目安】 4…3単元以上 3…2単元 2…1単元 1…取り組んでいない	2.75	3.27
協働的な学び		ねらい：多様な個性をもつ他者を尊重し、同じ目的を共有して、互いによりよい考えに高めたり、考えを広げたり深めたりして、よりよい学びを生み出す。 【評価の視点】 ○ 児童生徒が互いを認め合いながら、考えを広げられる場面を設けることができているか。 【評価の目安】 4…70%以上 3…50～69% 2…30～49% 1…30%以下	3.05	3.34



成果

- 一つの授業スタイルの確立
 - 授業力向上へ
 - 学校間での共通話題
 - 研究の深化
- 



課題

- 市外からの転入時の
フォロー
 - 学習の個性化の充実
時間の確保・保障
 - 学校ごとのオリジナル性
- 

令和7年6月18日(水)職員日より「えがお」 No.11

文責 佐伯 美和

令和7年7月9日(水)職員日より「えがお」 No.14

文責 佐伯 美和

おわりに

「児童が学びたいこと」

「研究のオリジナル性」

児童の笑顔を励みに、 リーダーシップをとりながら、 学校づくりを 楽しみましょう！

本日の磯村先生の研究授業を皮切りに、校内研が本格的に始まりました！唐津南学
力向上プランの共通実践「マウンテンを活用した授業」…子どもたちと共に学習課程
をつくり、ゴールを目指してみんなが見通しをもって進める一つの方法として、前向
きに、バクトルを描いてやっていきましょう！磯村先生、公開授業、ありがとうございます
います。そして、お疲れ様です。

そして、今月に入り、総合的な学習の時間も本格的に始まりました。総合的な学習の時間の学びは、必
ず「探究学習」があります(=「探究的な学びがない」と、総合的な学習の時間の学びとはいえない
ん)。本校は、地域の方々の協力のもと、地域と密着させながら学習がすすんでい
自然と一体化した「よかとこ」があることを再確認しました。4年生は、防災と環境保全の学習を
ゲーム類での学習がスタートします。5年生は田植えをし、米作りを通した学習がスタートします。6年生
は既に平和学習やよりよい町づくりに関する学びをスタートさせています。年間の学習課程から単元計画
に落とし込んで、どんな探究活動をしていくのか、子どもたちが課題意識をもって取り組めるよう、仕組
んでいきましょう。記録に残す評価では、以下の観点で、特に目立っていた様
子を指導要録に書くことになります。これらを意識すると、どのような単元計
画を立てるといかにヒントになると思います。

詳しくは右のQRコードから入っていただく、「国立教育研究開発院」から出
ている『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』を参考に
ができます。時間のあるときに、是非、ご一読ください。

(43-45, 48-50, 56-57, 63-64, 70-73 ページにポイントが載っています。)

「知識・技能」での評価規程

①概念的な知識の獲得 ②自在に活用することが可能な技能の獲得 ③探究的な学習のよさ

「思考・判断・表現」での評価規程

①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現

「主体的に学習に取り組む態度」での評価規程

①自己理解・他者理解 ②主体性・協調性 ③将来展望・社会参画

それと、今は世界的に言われているSDGs 17
の目標を意識した学びをとて大事にしていま
す。どんな項目のどんな視点で学習計画を立てて
いるのか、再度見直してみま
しょう。

QRコードで読み取り、そ
れぞれの項目をクリックする
と詳しい目標をみることで
きます。



【図に注意】

半径4m以上はなれる。
半径10km内に落着くことを認識する。

半径4m以上はなれる。

半径10km内に落着くことを認識する。

だそうです。えーっ、そんなに！？と思いますよね…。

唐津市内でもこういうことが、実際、この経験ができた

らう。実際に、突、が落ちてきた。空をうきまわっている

気をつけて、空をうきまわっている。空をうきまわっている

【個人のスマホ・タブレット使用について】

現在、全国いろんなところから、

児童生徒の写真を使った SNS の

投稿が目に付くようになって

います。中には、やダブ(通称「ダブ」)

を使ってのSNS投稿は行わないようにすべきだという空気が高まっています。

誰かにスマホは使い勝手がよく、画像もきれいで、通信で子どもたちの様子を載せて保護者さんに伝える

のようになってくると、子どもたちの社会情報の中、これらを取り入れることになってくると

思われます。

そこで、本校でも通称「ダブ」を使えないように、既存している物について

否か、誰かめをしているところです。できれば学年1台は準備したいのですが…。

ちょっとずつわかった世の中になってくると、

「主体的にタブレットを使った学習を工夫していきましょう」

気が、タブレットは持ち帰らせて、タイピングの宿題はもちろん、eスタディやドリルパーク等の宿

題を出して取り組ませましょう。他にも、リコーダーの動画を撮るとか、家庭科の宿題として焼く飯を作

って写真を撮影する、など工夫していきましょう。

【図に注意】

2学期から、子どもたちの給食費は無償になります。8月中旬に、保護者さんへ渡す給食費無償化の文

書が、準備されるそうです。無償化されたら、一層、感謝の心や食の大切さ等、食育を充実させましょ

うの呼びかけがありました。

なお、教職員の給食費は、質の向上の理由で値上げだそうです。

【図に注意】

【図に注意】

【図に注意】

【図に注意】



令和7年10月8日(水)職員日より「えがお」 No.22

文責 佐伯 美和

【子どもたちみんなにいきわたる指導・支援】

昨日、チャイルド・ハートの松崎先生が来校されました。今月から、月2回来校され、あわがしら組の対象
児童の適切な支援を調べていただき、助言していただくことになりました。昨日も3時間目の児童読書・児童
支援の後、色々とお話いただきました。対象児童へのアプローチだけでなく、学習環境づくりや一斉指導を
するときの心得ておきたいことについても話いただきました。それは支援学校の児童に限らず、全ての児童
への教育に関わりのあることでしたので、ここで、ご紹介します。

★児童へ支援する時★…特別感をもたせると、モチベーションが上がる。

①相手の土俵に立つ

(=その時の行動を頭から否定せず、その行動をうまく利用するために、まずは認めたり、共感したりする。)

②こっこの土俵へと誘う…ここで条件をつける。

(=「○○までに、～しよう!」「○○まで終わったら、～しよう!」というふうに)

★言葉は一言で伝えよう!★

(=「はい、いいえ」を出しながら、一緒に行動を加える。

(=「うーっ」といって、では、いまだにさせられている感満載で、うまくできない。)

★見通しを確保する★…急な変更は避ける。終わりの時間は守る。

約束は必ず守ることが大切。支援を要する児童に合わせたり言いなりになったりするのはなく、その子の

様子や興味・関心に合わせてコントロールをする。

★切り替えがうまくいかないときは、別の活動を取り入れてモチベーションを上げる★

【例】合図の音を出す。/スイッチを押す。/物を配る。 等々…

★切り替えがうまくいったとき★

【例】ポイント制にし、シールをためる。一成功体験の可視化

大人から見て、あるいは、先生から見て、「子どもが言うことを聞くのは当たり前」という考えは適切ではな
い。同じ人間として双方の思いが合致したとき、教育は成り立つ。

今週末は、いよいよ運動会当日を迎えます。支援を必要とする児童については、必要
であれば保護者と相談して出る種目を決めたり、応援(待機)場所を打ち合わせたりし
て、全員が参加しやすい配慮をしていきましょう。

